

**観覧料(税込)**  
 一般 2,000円 / 大学生 1,300円 / 高校生 1,000円

- 中学生以下、心身に障害のある方及び付添者1名は無料。
- 入館の際に学生証または年齢の確認できるもの、障害者手帳をご提示ください。
- 国立美術館キャンパスメンバーズ加盟校の学生・教職員は、本展を学生1,100円、教職員1,800円でご覧いただけます。学生証または教職員証をご提示のうえ、当館券売窓口にてお求めください。
- 観覧当日に限り本展の観覧券で常設展もご覧いただけます。
- 詳細は、国立西洋美術館公式サイトをご確認ください。

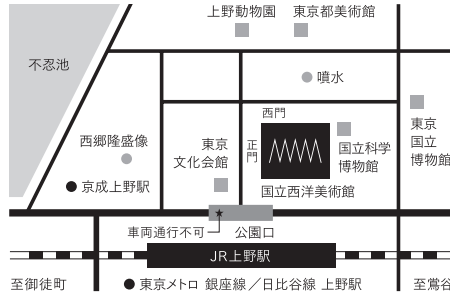
**関連イベント(予定)**  
 いずれも当館講堂にて対面形式で実施の予定。公式サイトにて開催の詳細・申込方法をご案内いたします。

**記念講演会(事前申込制)**  
**1** | 4月20日[土] 17:00-18:30  
 田中正之(国立西洋美術館長)  
 「作品と作品をつなぐもの— 解釈、応答、変奏」  
**2** | 5月11日[土] 17:00-18:30  
 新藤淳(国立西洋美術館主任研究員・本展企画者)  
 「ここは未来のアーティストたちが眠る部屋となりえてきたか？」

**スライドトーク(当日先着順)**  
 解説: 新藤淳  
**1** | 3月15日[金]、**2** | 4月26日[金] 各回 18:00-18:40  
**公開座談会(事前申込制)**  
 出演: 梅津庸一×小田原のどか×布施琳太郎×松浦寿夫×新藤淳[司会]  
 タイトル未定  
 3月23日[土] 17:00-19:00

**国立西洋美術館**  
 The National Museum of Western Art  
 [東京・上野公園]

- [交通案内] 〒110-0007 東京都台東区上野公園7-7
- JR上野駅下車(公園口) 徒歩1分
  - 京成電鉄京成上野駅下車 徒歩7分
  - 東京メトロ銀座線・日比谷線上野駅下車 徒歩8分
- ※駐車場はございませんので、お車での来館はご遠慮ください。



お問い合わせ  
 050-5541-8600 (ハローダイヤル)  
<https://www.nmwa.go.jp/>  
 X @NMWATokyo  
 Facebook @NationalMuseumofWesternArt  
 Instagram @NMWATokyo

※展示作品等、展覧会の詳細については諸事情により変更する場合があります。

Design: Toshimasa Kimura | Typeset in NMWA Aequalis by Kazuhiro Yamada (nipponia)

# Does the Future Sleep Here

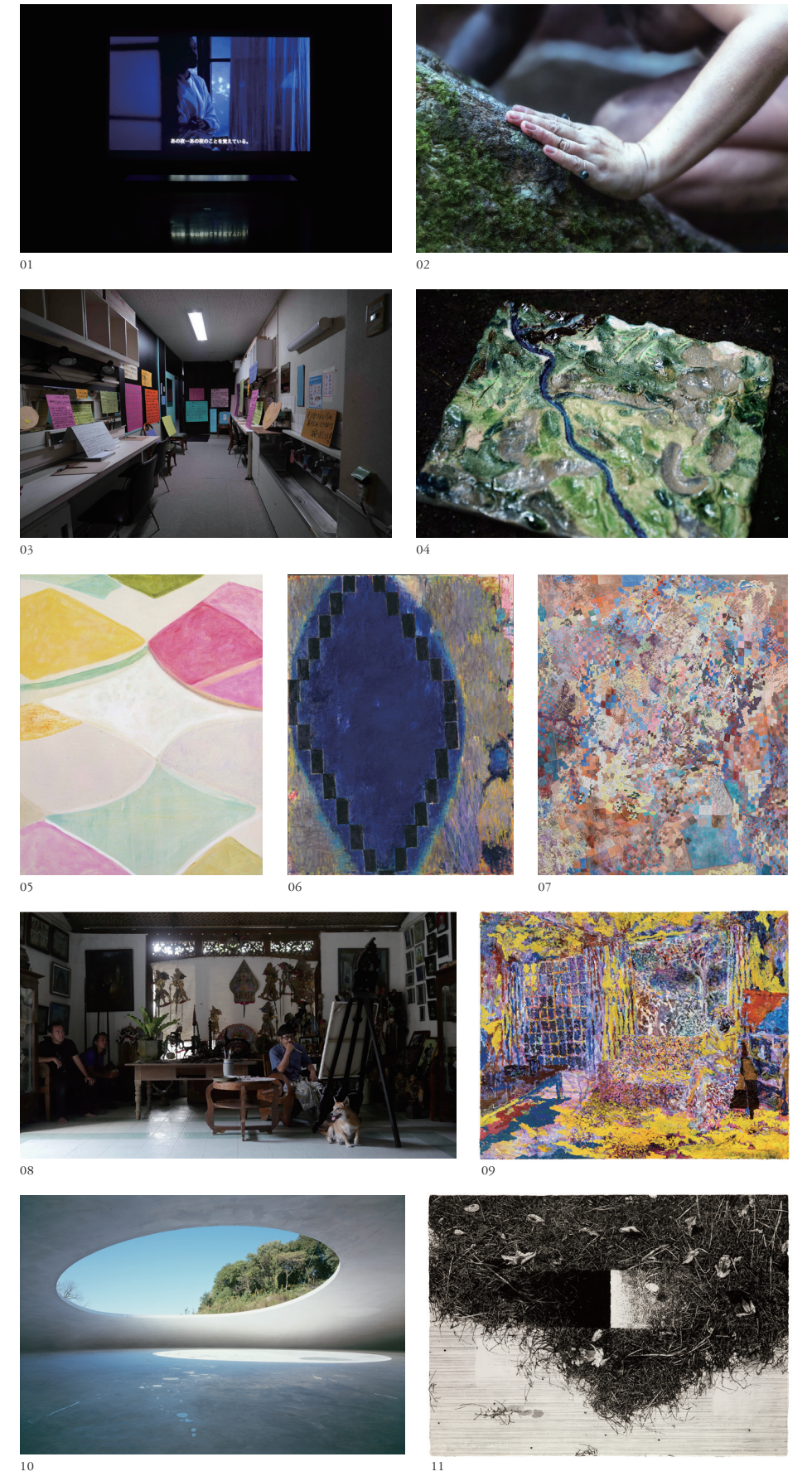
展示室は未来の世界が眠る部屋である。——  
 未来の世界の歴史家、哲学者、そして芸術家はここに生まれ育ち——  
 ここで自己形成し、この世界のために生きる。  
 ——ノヴァーリス

日本に何千人の油畫描きがいながら、その人たちはみんな本物のお手本を見ることもできずに、油畫を一生懸命に描いて展覧會に出している。私はそれが氣の毒なので、ひとつわしがヨーロッパの油畫の本物を集めて、日本に送って見せてやろうと思っている〔……〕。  
 ——松方幸次郎(矢代幸雄による回想)

〔松方コレクションの〕絵がもし返ってきた時、誰が一番これの恩恵を受けるんですかと、それは日本国民全部かもしれんけども直接的には我々美術家じゃありませんか〔……〕。  
 ——安井曾太郎(森弥多丸による証言)

国立西洋美術館——そこは基本的に、遠き異邦の過去の芸術家たちが残した作品群だけが集まっている場です。この美術館にはしたがって、いわゆる「現代美術」は存在しません。この展覧会ではしかし、そんな国立西洋美術館へと、こんにちの日本で実験的な活動をしているさまざまなアーティストの作品をはじめて大々的に招き入れます。そうするには、理由があります。国立西洋美術館の母体となった松方コレクションを築いた松方幸次郎は、みずからが西洋において蒐集した絵画などが、それらを眼にした芸術家の制作活動に資することを望んでいたといえます。また、戦後に国立西洋美術館の創設に協力した当時の美術家連盟会長、安井曾太郎のような画家も、松方コレクションの「恩恵を受ける」のは誰よりも自分たちアーティストであるとの想いを表明していました。これらの記憶を紐解くなら、国立西洋美術館はじつのところ、未知なる未来を切り拓くアーティストたちに刺戟をもたらすという可能性を託されながらに建ったと考えることができます。けれども、この美術館がじっさいにそうした空間たりえてきたのかどうかは、いまだ問われていません。それゆえ本展では、いまの日本に生きるアーティストが、国立西洋美術館やそのコレクションによって触発されるのかを検証してみたいと思います。あるいは、彼ら—彼女らの作品が当館の所蔵する過去の芸術といかに拮抗しうかを見てゆきます。こうしたことをつうじて、きつといろいろな問題が炙りだされるでしょう。国立西洋美術館にたいして、批判的な応答をしてくれるアーティストもいるはずだからです。「美術館」そのものを問題化することが、本展の企図となります。

「展示室は未来の世界が眠る部屋である」と書き、さらに「未来の世界の〔……〕芸術家は、ここに生まれ育ち——ここで自己形成し、この世界のために生きる」と記したのは、ドイツの作家ノヴァーリスです。それはヨーロッパに「美術館」と呼ばれる制度が本格的に成立した時期とも重なる、18世紀末のことでした。本展はノヴァーリスのその言葉を受けとめつつ、はたして「ここは未来のアーティストたちが眠る部屋となりえてきたか？」と問います。これは国立西洋美術館の自問であると同時に、参加アーティストたちへの問いかけです。そして、この展覧会を訪れてくださったみなさんとともに考えたい問いにほかなりません。



01 ミヤギフシ(How Many Nights) 2017年、シングルチャンネルビデオ、カラー、サウンド photo by Keizo Kioku  
 02 遠藤麻衣(蛇に似る3:川) 撮影:松尾宇人  
 03 飯山由貴「この病気になるないと理解できないと思います。どうぞ、他人事でございましょう」展(シアターねこ) 飯山由貴ワークショップ展示風景、2023年  
 04 エレナ・トウタツコワ(Handmaps: Walking Along the River #1) 2022年、セラミック、個人蔵  
 05 杉戸洋(the face) 2007年、アクリル/カンヴァス、個人蔵  
 06 辰野登恵子(WORK 89-P-13) 1989年、油彩/カンヴァス、千葉県美術館  
 07 坂本夏子(入口) 2023年、油彩/カンヴァス、作家蔵  
 08 小沢剛(帰ってきたペインター F—Painter F Song) 2015年、ビデオ、12分8秒、森美術館  
 09 安藤裕美(ベシジョン紫香葉) 2023年、油彩/カンヴァス、個人蔵  
 10 内藤礼「母型」2010年 豊島美術館 写真:鈴木研一  
 11 中林忠良(転位「04—地—1」) 2004年、エッチング、アクアプリント、ドライポイント、作家蔵

Revisiting the museum's response to contemporary art after 65 years